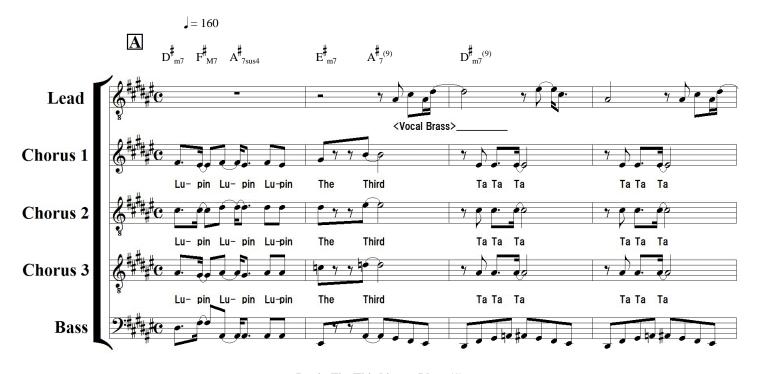
Lupin The Third in my Blues

Music: 大野 雄二 Lyric: 千家 和也 Arrange: maya



















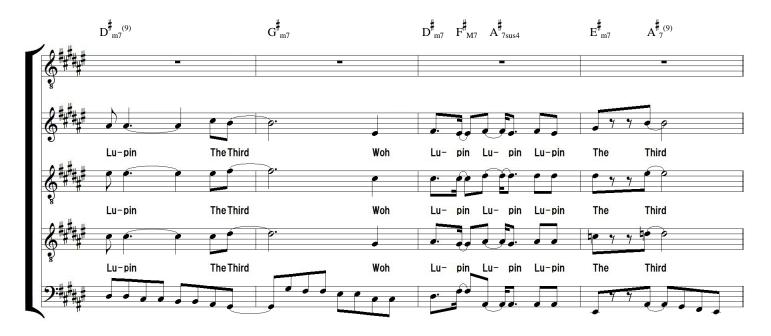




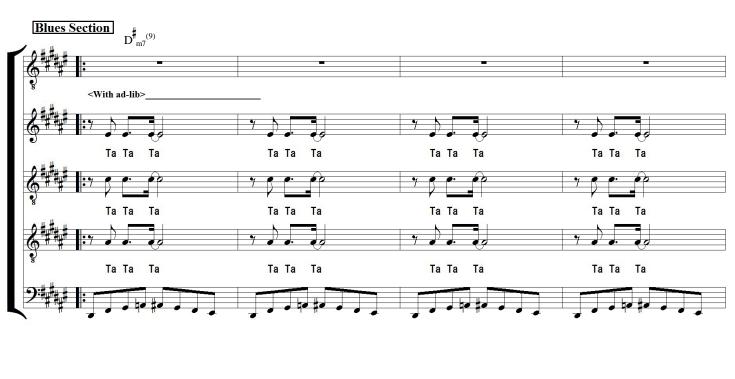
Lupin The Third in my Blues (5)

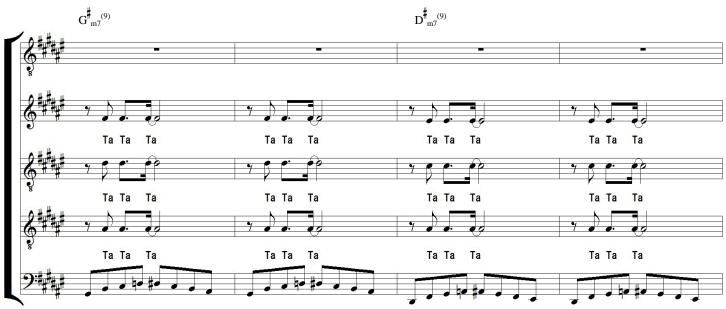






Lupin The Third in my Blues (6)









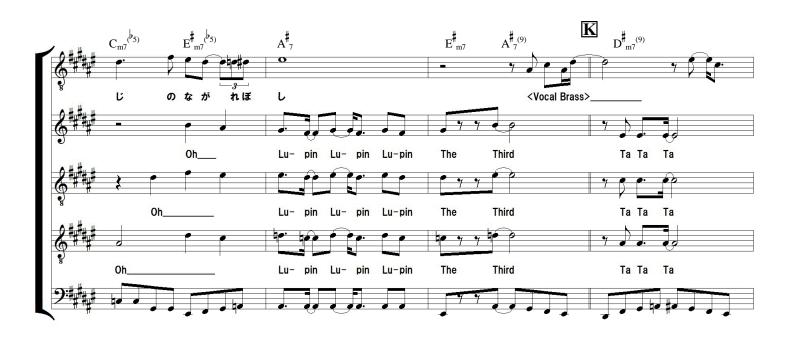








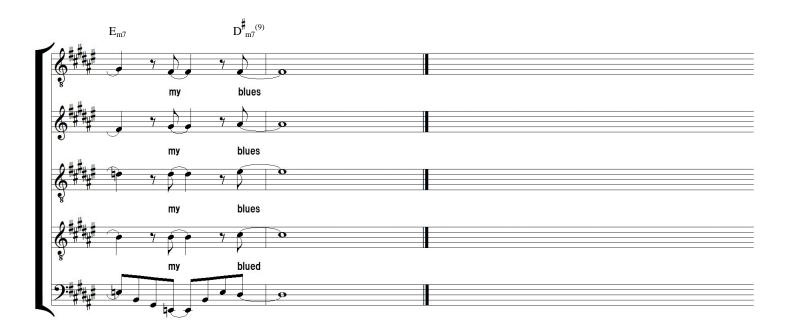












T×4 小節 ➡ SD×2 小節 ➡ T×2 小節 ➡ D×1 小節 ➡ SD×1 小節 ➡ T×2 小節 **:**合計 12 小節 (T: トニックコード, SD: サブドミナントコード, D: ドミナントコード)

■Blues に関する説明

ブルース blues はパートごとのアドリブを楽しむジャズの一形式としての側面があり、当譜面の間奏に blues section を設けてあります。ブルースの典型的なスタイルは、12 小節 1 セットのブルースコードに乗せて交替で各パートがアドリブソロを演奏していき、気が済むまで繰り返したらエンディングに進行していきます。例えば、Trumpet、Flute、Piano、Guitar の 4 楽器からなるジャズバンドだったとすれば、

	1周目	2周目		3周目		4 周目		Ending
Trumpet	Solo	Backing		Backing		Backing		Lead
Flute	Backing	Solo	III III	Backing		Backing		Backing
Piano	Backing	Backing		Solo		Backing		Backing
Guitar	Backing	Backing		Backing		Solo		Backing

といった具合です。これをアカペラコーラスで再現すると、

	1周目		2周目		3周目		4周目		Ending
Lead	Solo		Cho. 1		Cho. 1		Cho. 1		Lead
Chorus1	Cho. 1		Solo		Cho. 2		Cho. 2		Cho. 1
Chorus2	Cho. 2		Cho. 2		Solo		Cho. 3		Cho. 2
Choru4	Cho. 3		Cho. 3		Cho. 3		Solo		Cho. 3

などとなります。ブルースコードではありませんが、Get Ready (blenders)のソロ回しがこうした回し方をしています。midi ではアドリブパートが例として入力されていますが、記譜はしていません。Vocal Brass などを駆使してアドリブを遊んでみてください。

■ ドラムソロに関する説明

上記のようなアドリブソロを一通り全員まわったら、続けてドラムソロ(パーカスソロ)を加えていくことがあります。 <u>ドラム以外のソロとドラムソロが 4 小節ごとに交代する</u>ものを 4 ヴァース、2 小節ごとに交代するものを 2 ヴァースといいます。ほか、8 ヴァース、12 ヴァース、16 ヴァース、などなど好きなサイズで行われます。先ほどの 4 楽器 + Drum のバンド編成で例を挙げると、12 小節×2 周の割り振りはこうなります。

◆ 1 周目 (4 ヴァース)

(横軸1マスが1小節)

Code	T	T	Т	T	SD	SD	Т	T	D	SD	Т	T	計 12 小節
Trumpet	Solo								Backing				
Flute	Backing	g							Solo				
Piano	Backing	g			Mute			Backing					
Guitar	Backing	g			!				Backing				
Drum	4Beat				Drum Solo			4Beat					

◆ 2 周目 (4 ヴァース)

Code	T	T	T	T	SD	SD	T	T	D	SD	T	T	計 12 小節
Trumpet					Backing								
Flute		М	ute		Backing	3			Marta				
Piano		IVI	ute		Solo				Mute				
Guitar					Backing								
Drum	Drum S	olo			4Beat				Drum Solo				

といった具合に回していきます。上記例は 4 小節ごとにドラムソロが来ますが,2 小節ごとに来るのが 2 ヴァースです。曲を進めていくごとに 2 ヴァースにして交替の間隔を狭めていったり,逆に 1 回のソロの尺を伸ばしていったり,といった展開がよくなされます。